

2 災害が発生したときに行うこと

このパートでは、災害が発生した時の行動について考えます。

避難行動の流れ

ここでは、障害のある方やその支援者などが、災害が発生した時に行う行動の流れをまとめました。地震と大雨・台風では異なる部分があるので、確認しましょう。

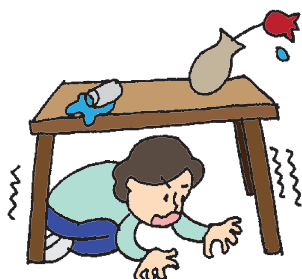
地震が起きたとき

揺れた!! (緊急地震速報が鳴った!!)

①地震の揺れから身を守る



室内では、家具などから離れ、机の下などに潜り、身を守る!



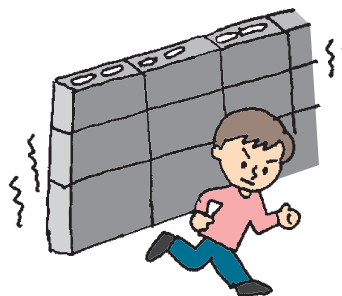
机などの下に隠れることができない場合は、布団にもぐる、座布団や本、ぬいぐるみで頭を守る!



一人で移動できない人を机などの下に移動させる!

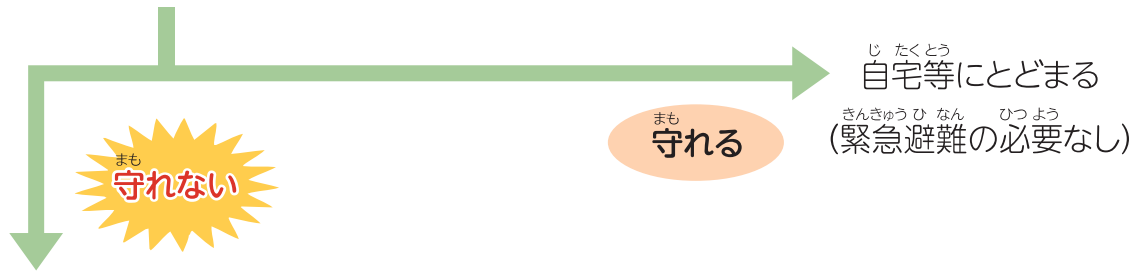


屋外では、建物やブロック塀から離れる!



揺れがおさまった!!

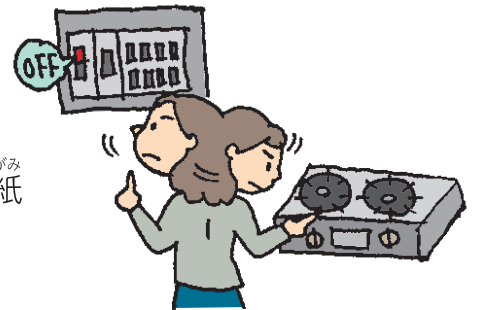
② 命を守る行動(自宅等で津波・火災・余震などから命が守れるか?)



緊急避難(指定緊急避難場所(津波・地震・大規模火災)へ)

(避難時に障害のある方や支援者が注意すること)

- 非常持出品の携帯
- 火の始末をする(火が出たら初期消火)。
- 電気のブレーカーやガスの元栓を締める。
- 家族の安全確認、安否情報を記載した張り紙
- 出口の確保
- テレビやラジオなどで情報収集



災害の恐れがなくなる!!

③ 自宅の状況を確認する



指定避難所へ



自宅に住めるかのチェックポイント

- 家が壊れていない(傾きやヒビがない。)
- 発電機やバッテリーの予備がある。
- カセットコンロやストーブなど、暖をとったり調理する道具がある。
- 食料がある。
- ケガや病気が悪くなっていない。
- 頼れる家族や知り合いが近くにいる。

など

大雨や台風のとき

雨が降ってきた!!

①自ら情報を入手する。避難を見据えた準備をする。



- テレビやラジオなどで気象情報や名古屋市からの情報に注意する。
- 避難に備え、非常持出品を確認する。



雨足が強まってきた!! (警報・避難情報の発令)

②命を守る行動(今いる場所で命が守れるか?)

- 堤防の近くで、安全な建物(鉄筋コンクリート造)にいない。
- 洪水(外水氾濫)・内水氾濫・高潮の想定浸水深より下の階にいる。

どれにも
該当しない

いじょう
どれか1つ以上に
該当

自宅等にとどまる(緊急避難の必要なし)





避難情報の発令などにより、緊急避難
(指定緊急避難場所(洪水・内水氾濫・高潮)へ)
「家屋倒壊等氾濫想定区域」の方は
原則区域外へ避難

(避難時に障害のある方や支援者が注意すること)

- 非常持出品の携帯
- 情報弱者(目や耳が不自由な方など)には必要な情報を知らせる。
- 自力での避難が困難なら助けを求める。



災害の恐れがなくなる!!

③自宅の状況を確認する



自宅で生活

自宅に住める

自宅に住めない

指定避難所へ



自宅に住めるかのチェックポイント

- 家が浸水していない。
 - 発電機やバッテリーの予備がある。
 - カセットコンロやストーブなど、暖をとったり調理する道具がある。
 - 食料がある。
 - ケガや病気が悪くなっていない。
 - 頼れる家族や知り合いが近くにいる。
- など

指定緊急避難場所、指定避難所、避難情報とは？

指定緊急避難場所

命を守るため、災害の危険からまず逃げるための場所です。災害の種類(地震、津波、洪水・内水氾濫・高潮、大規模火災)ごとに避難できる場所が異なります。

指定緊急避難場所
(津波避難ビル)の
表示例



35ページ以降の避難マップを見て、自分が避難する場所と経路を確認しておきましょう。

指定避難所

災害のおそれなくなった(軽減した)後、自宅が被災して帰宅できない場合に一定期間、避難生活を送るための場所です。



指定避難所の表示例

35ページ以降の避難マップを見て、自分が避難する場所や経路を確認しておきましょう。

避難情報

災害が発生する危険性が高まった場合に、起こりうる災害種別に対応した区域を示して、名古屋市が発表・発令する避難に関する情報です。
種類は以下のとおりです。

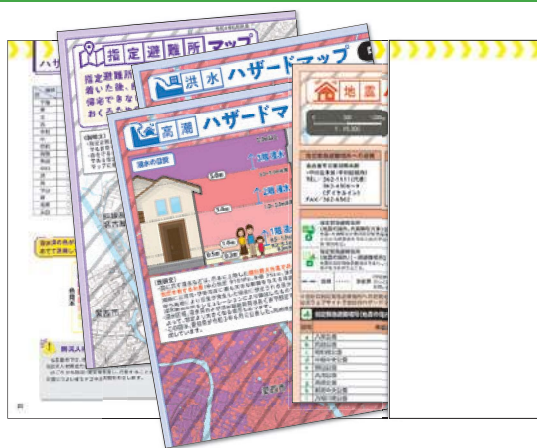


緊急度 低 高	警戒レベル	避難情報	住民が取るべき行動
	1		災害への心構えを高める
	2		自らの避難行動を確認する
	3	高齢者等 避難	避難に時間を要する方は危険な場所から避難
	4	避難指示	危険な場所から全員安全な場所へ避難
	5	緊急 安全確保	身の安全を確保する

洪水(外水氾濫)・内水氾濫・高潮の想定浸水深とは？

洪水(外水氾濫)や内水氾濫・高潮によって、住宅地や田畑などが水で覆われたときの深さ(浸水域の地面から水面までの高さ)を「浸水深」といいます。名古屋市では、**浸水深をシミュレーションにより求めたもの(想定浸水深)**をハザードマップに掲載しています。自宅などがどの程度浸水する可能性があるのか確認しておきましょう。

ハザードマップ



「名古屋市防災アプリ」でも確認できます。



Android



iOS

名古屋市公式ウェブサイトでご覧いただけます。

名古屋市 防災マップのページ

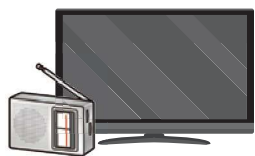
検索



※区役所・市役所でも閲覧できます。

防災に関する情報(避難情報など)の入手方法の例

防災に関する情報は、様々な手段で皆さんにお知らせします。



テレビ・ラジオ



防災スピーカー



広報車



ホームページ



X

Facebook



SNS(名古屋市防災)

緊急速報メール

対応する携帯電話に緊急情報を一斉に配信するサービスです。利用している携帯電話会社に確認しましょう。

「きずなネット防災情報」

登録型のメール配信サービスです。
m.saigai@cep.jpへ空メールを送信し、返信メールの内容に沿って登録しましょう。

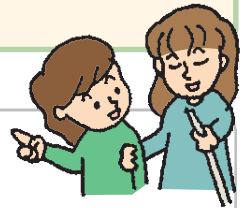


避難するときの留意事項

ここでは、障害のある方が指定緊急避難場所や指定避難所へ避難するときの注意点をまとめました。

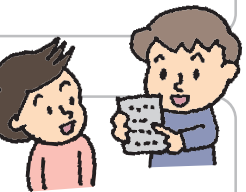
障害のある方すべてに共通すること

- 自分や家族の安全が確保できたら、隣近所の安否を確認するなど、できる範囲で互いに助け合うことで、地域の被害を少しでも小さくしましょう。
- 災害規模により、指定緊急避難場所や指定避難所へのルートやその場所が火災や地震割れなどにより避難できない可能性もあります。ラジオやインターネットなどによる情報を確認しながら行動しましょう。
- 非常持出品を持っていきましょう。



目の不自由な方

- 白杖など、自力で移動するのに必要な道具は忘れずに携帯しましょう。白杖を持つことで、視覚に障害があることを周りの人に知らせることができます。
- 普段の道も落下物や壁の倒壊などで通りにくくなっていることがあります。目が不自由で、移動が困難であることを周りの人に伝え、必要な支援を頼みましょう。



耳の不自由な方

- ラジオなどの情報が得られないということを周りの人に伝え、場合によっては、筆談などで教えてもらいましょう。



肢体の不自由な方

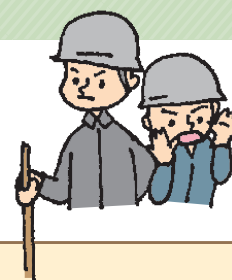
- 普段通り慣れた道も、落下物や壁などの倒壊、道路にできた亀裂や段差などで通りにくくなっていることがあります。支援が必要な場合は、そのことを周りの人に伝えましょう。

内部障害、知的障害、発達障害、精神障害、難病のある方



- 薬や必要な用具を忘れずに持って避難しましょう。
- ヘルプマークやヘルプカードを身につけて、配慮が必要な人だということを周りの人に知ってもらいましょう。

支援者としてできること



障害のある方を支援する方々(地域の方々など)が避難するときに気を付けるポイントを障害種別ごとに記載しました。

区 分	支 援 内 容
目の不自由な方	建物の倒壊や落下物などが把握できず、普段より移動に時間がかかることがあります。周囲の状況を説明しながら誘導しましょう。
耳の不自由な方	サイレンやクラクションが聞こえなかったり、建物が倒壊する音などが聞こえないことがあります。命を守るのに必要な情報は、筆談などで必ず伝えるようにしましょう。
肢体の不自由な方	車いすなどが使えないときは、背負う、複数人で抱える、毛布やシーツに乗せるなど、本人の身体状況に配慮した支援をしましょう。
内部障害や難病のある方	とっさの動きがゆっくりになるおそれがあるので、本人のペースに合わせた誘導をするなどの配慮をしましょう。
知的障害、発達障害、精神障害のある方	異常な状況下でパニックになることがあります。優しい言葉で状況を説明し、本人を安心させながら、指定緊急避難場所や指定避難所まで一緒に行動しましょう。

このパートでは、^{さいがい}災害が^{はっせい}発生し、^{じたく}自宅で^{せいかつ}生活ができない^{ばあい}場合の^{しーてい}指定避難所^{ひなんじょ}生活^{せいかつ}について^{かんが}考えます。

ここでは、以下のイメージ図をもとに、指定避難所がどのようなところか確認し、指定避難所での生活の心構えをしておきましょう。